

被



言葉を詰まらせながら広島原爆の経験を語る青木さん(右)と、満州やシベリアでの経験を語る大橋さん

勤の乗用車やバイクが渋滞を避ける「裏道」として使用。生徒367人の64%が自転車通学で、保護者から



登校の、ある方曜日を除き、平日朝夕の通学時間帯に生徒ら10〜15人が通学路の交差点

「エンディング」考える

終活講演会に380人

小山

【小山】終活カウンセラー協会(東京都品川区)代表理事の武藤頼朝さんの講演会がこのほど、市文化センターで開かれ、30〜80代の市民ら約380人が「終る」思いつむぎノート」を

普及させようと、市社会福祉協議会が企画した。ノートは万が一への備えとして、親族の連絡先や医療や介護、葬儀の在り方などを記入する。市が5千部作製し、希望者に配布している。武藤さんは終活について「人生のエンディングを考

終活について話す武藤さん



つめ、今をよりよく、自分らしく生きる活動」と説明。という言葉が当たり前に使われている現代を「死が個人のものになっていく時代」とした。また「過去を振り返り、現状を把握する人生の棚卸しから始

小学生サッカー96チームが熱戦

5県から過去最多

【足利】県内外から小学生サッカーチームが集まる「MUNDIAL(ムンディアル)ASHIKAGA A2014」(市サッカー協会主催、下野新聞社後援)が12日、五十部運動公園など11カ所で開幕した。写真。13日まで。

旬の桃を半分に切り、ゼリーの中に閉じ込めた。素材本来の甘みや柔らかな食感を生かした一品だ。

丸桃ゼリー (佐野)

1968年創業の和菓子屋「金緑」(池田喜彦社長)の堀米店が4年前から、6月末〜8月の夏季限定で製



造、販売している。

JA佐野果樹部会 妻地区産の桃を仕入れ

素材の甘み 食感生かす

ている。旬の異なる品種を順次使うため、「時期によって味も少し変わります」と同社の池田昌一専務(43)は話す。約700個売れるという。

桃の皮は、手間をかけて1個ずつ包丁でむく。湯むきと比べて、生の食感を残しやすいためだ。果肉を砂糖水で煮てから、桃の洋酒で風味付けしたゼリーでパックする。商品人

(田崎智亮)

金緑・堀米店▽佐野市堀米町3372
の2 ☎02833・22・8117▽午
前9時〜午後7時 年中無休▽価格 1
個389円

大会には市内の21チームをはじめ、本県と群馬、茨城、埼玉、福島の前96チームが参加した。昨年までの72チームから規模が拡大し、参加チーム数は過去最多。渡良瀬川近くの五十部運動公園では、真夏のような日差しの下、子どもたちが